

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 29 年 6 月 8 日 (2017.6.8)

【公開番号】特開 2017-75337 (P2017-75337A)

【公開日】平成 29 年 4 月 20 日 (2017.4.20)

【年通号数】公開・登録公報 2017-016

【出願番号】特願 2017-18335 (P2017-18335)

【国際特許分類】

C 0 8 G 75/0227 (2016.01)

【F I】

C 0 8 G 75/0227

【手続補正書】

【提出日】平成 29 年 3 月 30 日 (2017.3.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

下記 (1) から (4) を満たすポリアリーレンスルフィド。

(1) 重量平均分子量が 1 0 0 0 0 以上である。

(2) 重量平均分子量 / 数平均分子量で表される分散度が 2 . 5 以下である。

(3) 加熱した際の重量減少が下記式を満たす。

$$W r = (W 1 - W 2) / W 1 \times 1 0 0 \quad 0 . 1 8 (\%)$$

(ここで W r は重量減少率 (%) であり、常圧の非酸化性雰囲気下で昇温速度 2 0 / 分で熱重量分析を行った際に、1 0 0 到達時の試料重量 (W 1) を基準とした 3 3 0 到達時の試料重量 (W 2) から求められる値である)

(4) 窒素含有量が 2 0 0 p p m 以下である。

【請求項 2】

下記式を満たす請求項 1 に記載のポリアリーレンスルフィド。

$$M F R = M F R 1 / M F R 2 \times 1 0 0 \quad 2 0 0 (\%)$$

(ここで M F R はメルトフローレイト (以下、M F R) の変化率であり、常圧の大気下 3 1 5 . 5 で 5 分加熱後に 5 k g の加重を印加して行う M F R (g / 1 0 m i n) の測定で、未酸化品のメルトフローレイト (M F R 1) と酸化処理品 (粒径が 2 . 0 0 ~ 1 . 7 0 m m の粉粒物を大気下 2 3 0 x 6 時間処理したもの) のメルトフローレイト (M F R 2) から求められる値である。なお、M F R 測定は A S T M D - 1 2 3 8 - 7 0 に準じ、温度 3 1 5 . 5 、荷重 5 k g にて行う。)

【請求項 3】

実質的に塩素以外のハロゲンを含まない請求項 1 または 2 のいずれかに記載のポリアリーレンスルフィド。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 5】

[2] 下記式 (I I) を満たす前記 [1] に記載のポリアリーレンスルフィド。

$$MFR = MFR1 / MFR2 \times 100 \quad 200 (\%) \cdots (II)$$

(ここで MFR はメルトフローレイト(以下、MFR)の変化率であり、常圧の大気下 315.5 で5分加熱後に5kgの加重を印加して行うMFR(g/10min)の測定で、未酸化品のメルトフローレイト(MFR1)と酸化処理品(粒径が2.00~1.70mmの粉粒物を大気下230 × 6時間処理したもの)のメルトフローレイト(MFR2)から求められる値である。なお、MFR測定はASTM D-1238-70に準じ、温度315.5、荷重5kgにて行った。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0184

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0184】

本実施例に示すとおり、反応時間を延長し反応を進めることで、実施例4のPASよりも窒素含有量の少ないPASを得られることが分かる。